

熊本城の天守

熊本城調査研究センター 鶴嶋俊彦

天守は城の核心（城は当知行〔実効支配〕のシンボル、天守はその核心）

1 さまざまな隈本城の存在

室町・戦国時代の隈本城

- ①南北朝時代、「藤崎城」に対抗する南朝方の「隈本城」⇒場所不明
- ②室町時代、藤崎宮惣政所職を務める出田山城守の拠点（江戸時代は千葉城と呼ぶ）
- ③戦国時代初期 文亀 2 年（1502）頃、守護菊池能運や出田刑部らが「隈本」に在城
- ④戦国時代中期 永正 17 年（1520）頃、菊池義武が隈本に在城
- ⑤戦国時代中期 天文 3 年（1534）頃、大友方の鹿子木寂心が在城
- ⑥戦国時代後期 天文 19 年（1550）、菊池義武在城。大友義鎮が攻め、城親冬を置く
- ⑦戦国時代末期 天正 13 年（1585）、島津義弘が守護代となり入城
- ⑧天正 15 年（1587）、豊臣秀吉が佐々成政を肥後の領主とし隈本を居城とさせる
- ⑨天正 16 年（1588）、国衆一揆で秀吉は佐々成政を更迭、清正に在城（統治）を指令
- ★「隈本」の語源➡隈（崖・岸）の下か？ 藤崎八幡宮の門前や茶臼山麓を指すか？
- ★室町時代以降、隈本が守護の拠点となり肥後国経営の中心地となる

2 加藤清正書状に見る隈本城普請

天正 17 年 12 月 29 日、来年の東国出征（小田原攻）がない場合は予定通り普請せよ！

＊清正は不出征 ＊「天正十八年」銘の軒平瓦が高麗門近くから出土

天正 19 年 2 月 26 日、磊（ライ、石垣）や堀の普請を念を入れて進めよ！

同年 4 月 24 日、**石くら**・作事は油断するな！おうへの材木用意せよ！

天守への橋が出来次第に大川の橋を架けなさい！

同年 8 月 6 日、**いしくら普請**之者共が油断しないようにしなさい！

同年 8 月 13 日、隈本の作事は帰国前に完成させておけ！

おうへ（広間）の材木を用意しておき冬中に完成させなさい！

来る十月十日より名護屋御座所建設の材木を準備せよ！

同年 9 月 21 日、惣構えの塀は丈夫に！ 橋の準備をして本丸の塀を建てろ！

表の門櫓下の橋は念入りに！

同年 11 月 28 日、惣構えの塀の修理、あまくさ丸・小座敷丸の作事をしなさい！

＊文禄元年（1592）4 月～慶長 3 年（1598）12 月は朝鮮出兵中

慶長 4 年 7 月 29 日、清正、（隈本新城）普請を昼夜兼行で進める

＊「慶長四年八月吉日」銘の李朝系軒平瓦の製作

慶長 5 年 10 月 26 日、黒田如水もてなしのため**新城天守**の完成を急がせる

慶長 12 年□月 7 日、この度「御城出来」、隈本を熊本に改名する ⇒国絵図提出

3 加藤清正の朝鮮出兵と城普請

天正 19 年 8 月、「なごや御座所」（名護屋城）築城の秀吉指令 **天守台普請？**

天正 20 年 4 月 12 日名護屋出航、同 17 日、第二陣加藤清正組釜山に上陸

同年 5 月、漢城に入城

同年 7 月、会寧を攻略し朝鮮二王子を捕縛

同年 8 月、オランカイ（朝鮮北東部）へ侵攻

文禄 2 年 6 月、晋州城攻略に参加

同年 7 月、秀吉の命で**西生浦倭城の普請**に着手（天守台を建造）

文禄 4 年 10 月、機張城に移動

文禄 5 年五月、一時帰国し伏見地震に遭遇。11 月に再渡海

慶長 2 年 3 月、西生浦倭城で松雲大師と会談

同年 10 月、蔚山倭城普請、浅野幸長、毛利秀元家臣穴戸元により着手

同年 12 月、明・朝鮮連合軍が普請中の蔚山倭城攻撃。清正、籠城戦を救援

慶長 3 年 8 月 18 日、秀吉死去で全軍に撤退。清正は 11 月まで蔚山。12 月に博多着。

4 新城の築城

（1）新城普請の着手

慶長 4 年 7 月、昼夜兼行で隈本に新城を普請中で支城の内牧城普請も同様に急がせる

＊この時期、清正は日向「庄内の乱」に介入。島津氏との軍事的緊張の存在

＊「慶長四年八月吉日」銘滴水瓦の製造（李朝系文様の天守所用瓦の製造）

（2）茶臼山という台地

①古代から交通路が通過し、藤崎八幡宮も立地する要衝

②京町台地との地峡部や周囲の斜面は天然の要害を形成

③阿蘇火山噴出物の地質は人力での掘削が容易⇒ほぼ自由に縄張りが可能な台地

（3）新城普請の契機

城づくりは軍事力に相応しい規模が原則⇒半国領主の清正に大きすぎるという疑問

台地の南東突出部を鉤型空堀で仕切って本丸とする念願の縄張りプランの採用

★新城普請は秀吉の死後の政治情勢を契機に清正の領土的野心が発露した事象カ

（4）慶長 5 年、加藤清正による野心の実践

8 月 12 日、家康が清正に「肥後筑後両国の成次第」申付け

10 月 17 日、小西行長の宇土城・八代城を降伏させる

10 月 24 日、柳川の立花宗茂を降伏させる

以後、加藤・黒田・鍋島・立花の連合軍 4 万で島津攻略へ進軍

津奈木・水俣まで出陣（水俣市の侍に鍋島の「肥前陣」あり）

11 月 22 日、島津氏の降参。徳川家康の命で連合軍が撤収 ⇒翌年肥後一国領主へ

（5）隈本新城の普請催促

柳川立花氏が降参した翌々日 26 日書状で黒田如水もてなしのため天守の完成を急ぐ

① 薩摩表への働（侵攻）前に申し置く

② 黒田如水を新城で持て成したいので、天守の作事を急ぎ、晝他を用意しなさい！

③ 小台所の壁塗りが間に合わないなら、薦（いし）張りで構わない

④ （古城の）小座敷の畳を使わせなさい ＊「小座敷」は古城の「小座敷丸」カ

5 天守の変遷

- (1) 古隈本城（古城）の天守
- ①天正19年頃に建造された「いしくら」（穴蔵）を備えた本格的天守カ
 - ②本丸に「おうえ」（広間）とともに存在したが、新城移転後に史料に見えない
- (2) 新城の天守
- ①慶長4年頃に大天守の石垣普請開始し慶長5年10月には三重六階櫓の完成間近
 - ②小天守は慶長17年の宇土城の廃城に伴い翌年頃までにその天守を移築
 - ③小天守穴蔵は井戸・カマド・水屋を備えた台所 ＊籠城に備えた天守の機能強化
＊小天守の基礎部分は建造より以前に拡張済み（小天守台より古い技法の石垣）
＊慶長15年4月24日付け書状の「天守の井出（井戸）」は、小天守の井戸カ
 - ④記録では宇土城から移築した天守は小天守で「宇土櫓」ではない
 - ⑤宇土櫓は廻縁や高欄、鯨を備え、様式的に天正末～慶長初期天守に相応しい建築
 - ⑥慶長12年頃完成した櫓台石垣に古隈本城の天守を移築した可能性
- ★慶長5年の大天守建造⇒慶長12年頃の宇土櫓建造⇒慶長17・18年の小天守建造

6 加藤清正の石垣普請に関する世評

- (1) 荻生徂徠（*タキユ* ソライ、元禄頃の儒学者）『鈴録』の「清正流石垣」の評価
- ①石垣は加藤清正の一流がある
 - ②「両カク」（飯田覚兵衛・三宅角左衛門）という石垣名人の存在
 - ③門外不出の技術
 - ④今（元禄の頃）は町人の技術となり武士は知らない
 - ⑤代表的石垣は大坂城・名古屋城・熊本城（の天守台石垣）
 - ⑥「トタン」を入れて石を繋ぐという技術の存在
- (2) 松浦静山『甲子夜話』巻之一 32 （天保8～12年頃の著作）
- ①「加藤清正は石垣の上手なりしとぞ」
 - ②「今肥後隈本城の石垣はもとより高さが、其下に至り走り上るに、二三間は自由に上るれど、それうへの所は頭の上にのぞきかゝりて、空は見えずとなり」
 - ③「伝云ふ、清正の自ら築く所と」「是は隈本に往たる者の話なり」
- ★江戸時代に「武者返し」という用例は確認できない
★石垣根元が非常に緩やかで反り上がるという世間の評判
★静山の表現からイメージできるのは大天守台の石垣

7 加藤家の手伝い普請（天下普請）

慶長9年6月1日、江戸城手伝い普請発令（石材切出し）
同10年11月、石積船による伊豆からの江戸へ石材運搬
同11年3月1日、江戸城本丸普請起工 清正、富士見櫓台の施工
慶長12年正月23日から駿府城の天下普請 12月火災
同13年正月から駿府城再建工事。三宅角左衛門派遣
慶長15年、名古屋城天守台の手伝い普請
〔忠広時代〕慶長19年4月、江戸西の丸下の桜田・日比谷濠石垣普請

元和6年正月～同8年6月）大坂城大手門石垣普請 ＊この頃、八代での新城普請
元和8年、徳川秀忠の江戸城天守台普請
寛永1・2年、大阪城天守台普請
寛永5年、江戸城外濠石垣工事

8 慶長15年の名古屋城天守台石垣の手伝い普請

4月15日、清正、駿府から名古屋城普請場に向う
4月24日、清正、天守の井戸普請を心配する
6月27日付飯田覚兵衛宛書状で清正は京に滞在
7月22日、清正、名古屋に滞在して天守石垣普請を監督。完成間近と国元に伝える
8月27日、名古屋城天守台完成
9月4日、京都本願寺で能興行（完成の打ち上げ？）
11月8日、熊本でも能興行
★上方と名古屋を往復し名古屋城普請を監督カ

9 細川時代の天守

寛永2年6月17日の熊本地震での天守の被災
「寛永二年六月十七日ノ夜、大なへゆり、殿主、其外城中ノ家、から木立斗残り、かわら、ひき物も皆々おちくづれ、城中二人五十人ほど死申候、煙硝倉ともずりニ火出候而、跡もなくふきちらし、（中略）城之儀者、江戸へ被仰伺のよし申候」
寛永2年6月17日の夜の大地震で天守その他の城中の家が葉のない木立のようになり、瓦や梁も落ち崩れ、50人ほどが死んだ。煙硝倉に火がついて跡形なく吹き飛ばした。
★地震で爆発の「塩硝倉」は寛永7年頃絵図にある西出丸北東の「ゑんしょう小屋」カ？
★報告どおりなら震災後に天守や御殿などの大規模修理がされたはず。その痕跡は・・・
★寛永11年の細川忠利の修理願いには本丸内の修理が一切含まれていないが・・・

10 近現代の天守被災

明治3年、熊本城の廃棄案 ＊10月「御城拝見」で天守の見学者殺到
明治4年8月、鎮西鎮台の設置 ＊城郭は兵部省の管轄へ
明治5年6月19日、明治天皇巡幸 ＊天皇は天守上階で御休息
明治6年1月、陸軍財産となり存城処分 ＊存城は陸軍用地としての正式編入を指す
＊全国で43城、のち58城の存城。他は廃城となり荒廃の加速
同年6月から二の丸三の丸に兵舎・病院など建設 ＊保存区域と開発区域の区分
明治8年市街図に城内の櫓・門多数あり＊鎮台は本丸以外で諸櫓・諸門17棟を維持カ
明治10年2月19日、西南戦争時に天守・御殿などを焼失〔戦災〕
＊天守は明治天皇の行在所的建物⇒天守の自焼を公言できない事情が内在カ
★明治10年の天守等炎上で石垣に甚大なダメージ⇒以後の保存・修理に影響
明治22年7月28日熊本地震 ＊焼損していた天守穴蔵やクラガリ通路の石垣の崩落
★地震後、第六師団は名城復活のため原形復旧を原則に6年ほどかけて「保存修復」
昭和2年倒壊寸前の宇土櫓などの解体修理 ★翌年、国宝の指定申請 昭和8年指定
昭和34年4月から同35年に天守閣の再建工事 9月完成